

小鶴西遺跡

(こづるにしいせき)

所在地：東茨城郡茨城町小鶴字西 1436 番地 2 ほか
調査期間：令和3年4月1日～7月31日
調査面積：9,727 m² (調査 2,724 m², 表土除去 9,727 m²)
委託者：水戸土木事務所
調査原因：主要地方道大洗友部線バイパス事業
調査機関：公益財団法人茨城県教育財団(茨城町事務所)
Tel.029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

遺跡の立地と城館跡の分布

小鶴西遺跡は、茨城町北西部、涸沼川左岸の標高約5mの低地から微高地に位置しています。

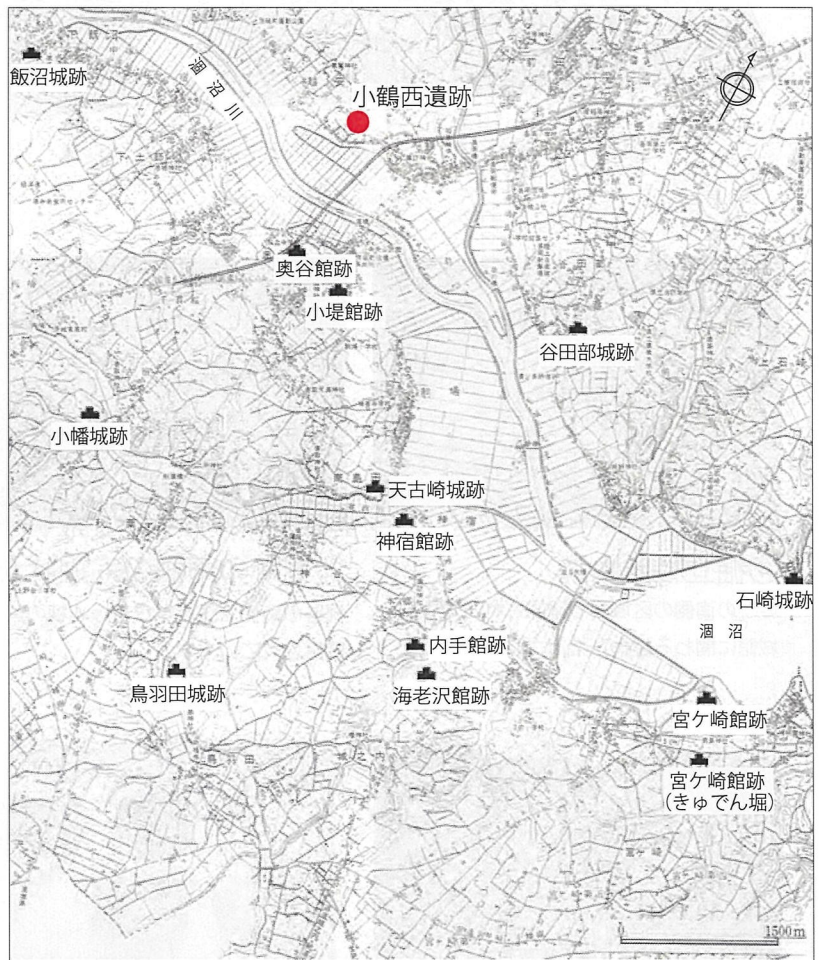
茨城町は、縄文時代の越安貝塚や小堤貝塚、弥生時代の小鶴遺跡、奥谷遺跡など、古くから人々の生活が営まれていた地域です。また中世には、涸沼や涸沼川水域の高台に小幡城や飯沼城、天古崎城、小堤城、石崎城などの城館が所在していました。

調査の成果

今回の調査は、遺跡のほぼ中央部の埋没谷に挟まれた地点で、掘立柱建物跡4棟、井戸跡7基、堀跡及び溝跡8条、柱穴列2条、土坑59基、ピット群4か所を確認しました。堀跡は東西方向約55m、幅約3m、深さ約80cmの規模で、東端部は谷部へ接続し、自然地形を利用して築かれています。また堀跡の南側では、堀跡にほぼ平行する掘立柱建物跡を確認しました。

遺物は、土師質土器や木製品などのほか、中国産や瀬戸美濃産(現在の愛知県付近)の陶磁器、刀の縁金具が出土しました。また、堀跡の南西部に位置する土坑からは、県内初となる木箱に納められた埋納銭が出土しました。唐銭や北宋銭、明銭が緡銭(銭の中央部の孔に紐を通し、つなげられた銭の束)の状態^{さしげに}で、推定2,700～3,400枚が埋納されていました。こうした埋納銭は備蓄や蓄財、宗教的な地鎮や結界などの目的で埋められたと考えられています。

堀跡によって方形の区画が形成されていることや、調査区の北西部の台地には、「宿保内」の字名や空堀跡などが残っていることから、調査区が室町時代の城館跡の一部であったことも想定しながら、今後の調査を進めていきます。



茨城町域の城館跡分布図(『茨城町史』 通史編 201 頁引用)





①第30号土坑

木箱に納められた状態で出土しました。木箱の大きさは長さ50cm、幅13cm、高さ11cmです。



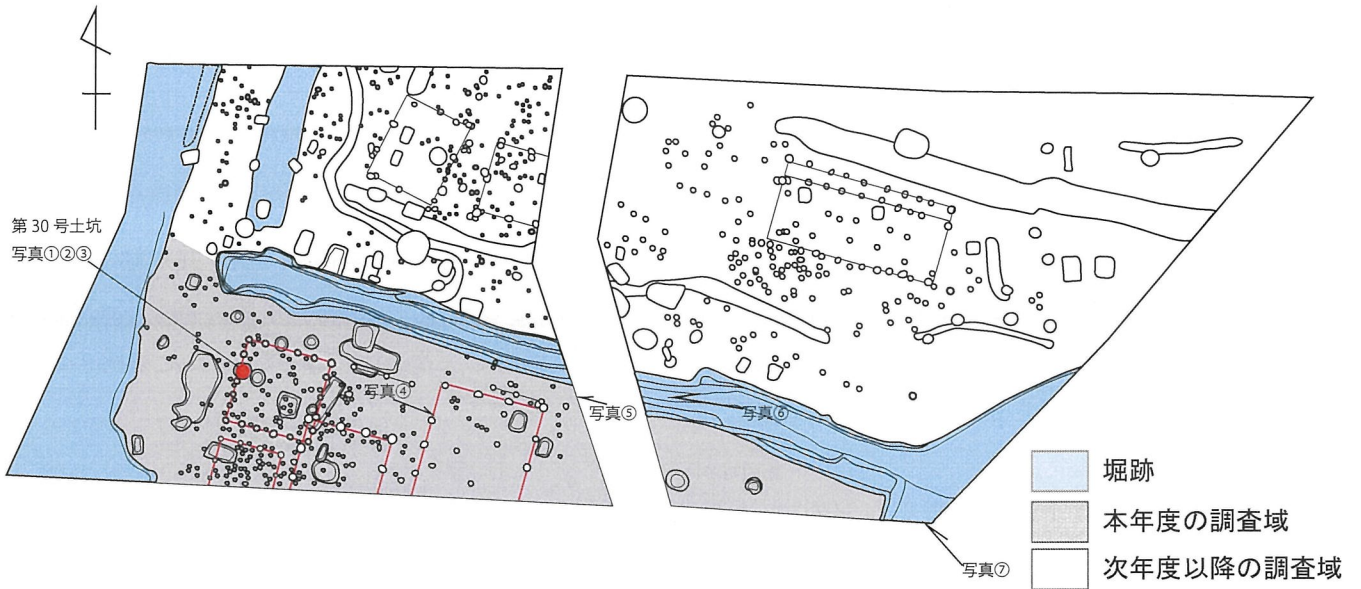
②第30号土坑

木箱の側板を外した状況。緋銭（さしぜに）が3段から4段で納められていました。



③第30号土坑

埋納銭の取り上げ状況。木箱や緋銭を固定・保護してから取り上げました。



④掘立柱建物跡

堀跡の南側の区域から確認された建物跡。城館に関わる建物と推定されます。



⑤堀跡の南側の完掘状況

堀跡の南側の区域からは4棟の建物跡が確認されています。



⑥堀跡から出土した遺物

堀跡の上層（礫混じり黒色土層）からは多くの遺物が出土しました。



⑦堀跡の南東隅部

調査区に接する台地には「宿保内」の字名や空堀跡などの遺構が残っています。



⑧堀跡から出土した遺物

有力武士層が所有したと考えられる陶磁器類。涸沼川を利用した水運でもたらされたと考えられます。



⑨堀跡から出土した遺物

出土した縁金具。刀柄の鐔に接する部分に用いられます。